

## ハートで語ろう！ふらっとミーティング対話記録

日時 平成22年3月24日 19時～

会場 大田公民館

### 1 出席者

市民40人、市長、副市長、教育長、市長室長、総務部長、健康福祉部参事、環境農林部長、地域整備部長、水道部長、財務部次長、産業観光部次長、すぐやる担当、事務局

### 2 事前質問回答要旨

Q：熊野神社付近にあった防火水槽が、土地の譲渡に伴ってなくなってしまった。土地の提供者がいるので、新たに防火水槽を設置してもらえないか。

A：市における防火水槽等の消防水利の整備は、設置基準に基づいて、整備を計画的に進めています。現状、この周辺では、その他の消防水利によりカバーできる状況ですが、今回は、土地を提供していただく方がいますので、要望に応えられるよう努力します。

Q：先日あった建物火災の際に、消火ボックス内にホースが2本しかなかった。初期消火の対応のためにも、ホースを5本に増やしてもらえないか。

A：消火栓ボックスの維持管理については、原則的に町会にお願いしています。新設の際には、市から設置費の一部を補助する制度がありますが、ボックスの内容を充実する場合には対象となりません。消防団に貸与済みの消防ホース等を有効活用してください。

Q：現在、市から各町会に対して交付される、事務費、健康づくり等の補助金は、町会の運営にとって必要な財源で、今後も、現状の補助を続けてもらえないのか。

A：市では、補助金の廃止・減額等の大幅な見直しを行っていますが、これらの補助金の平成22年度分は、昨年同様で予算措置をしました。当面は、現状の水準を維持できるよう努力します。

Q：以前は大雪が降ると、県道44号線（秩父児玉線）は早朝から除雪をしてもらっていたが、道路が旧道となったせいか、先日の大雪の際には、除雪車が来たのは午後1時半だった。今までのように、早い段階で除雪してもらうことはできないか。

A：この道路を維持管理する秩父県土整備事務所では、主要道路を優先に除雪を行っていますが、今回の降雪が大雪であったことから、業者による除雪が遅くなったものと思われます。今後、この県道が市に移管され、除雪を市で実施する場合でも、県・市から除雪業務を受諾している業者は、主要な国道・県道を最優先に行い、移動しながら市道を行うような順序で実施していますので、ご理解ください。

Q：スーパーおがわやから、皆野方面の市道大田58号線の歩道は、舗装面が傷んで、夏場には草が茂って通行の妨げになっている。そこを避けて車道を通る子どもや、

車イスで歩道を通行する子どももいて、非常に危険な状況なので、改修できないか。  
A：この路線の歩道は、毎年2回程、除草を実施しております。歩道の改修については、今後、現地を調査し検討していきます。

Q：この道路沿いに植えてあるハナミズキに、アメリカシロヒトリなどの害虫が発生する。本数が多く、地元では対応しきれないので、駆除してほしい。

A：ハナミズキの維持管理は市が行いますので、時期がきたら害虫駆除を実施いたします。

なお、アメリカシロヒトリを確認しましたら、道路課に連絡してください。

Q：大田地区の高齢化の実態を、60歳～64歳、65歳～69歳、70歳～74歳、75歳以上に分けて、年代別に説明してほしい。

A：本年1月1日現在、大田地区の人口は2,358人です。うち、60歳～64歳までは155人、65歳～69歳は117人、70歳～74歳は126人、75歳以上は357人です。大田地区での高齢化率は25%、市全体は27%です。

Q：大田地区から診療所がなくなったため、通院するお年寄から、新たな診療所を切望する声を耳にする。近隣地域で、週1、2回の出張診療を行っている地域があるので、大田地区に出張診療所の開設はできないか。

A：市立病院の医師が、月に2回、浦山出張診療所に出向いていますが、診療行為を行っておらず、今では健康相談を行っているのが実状です。市立病院では、医師不足や撤退する二次救急病院の肩代わりにより、新規事業には手が回らない状況です。

Q：大田地区の在宅福祉員には、一人暮らしの高齢者に食事を配るなど、大変骨を折ってもらっている。在宅福祉員は、予算不足を補うため、自宅から料理を持ち寄っていると聞いている。市では、活動費（食材費）を多少でも増額できないか。

A：こうした事業は、秩父市社会福祉協議会へ市が補助金を交付し、在宅福祉員さんのご協力で実施されています。今後、補助金交付先の社会福祉協議会と各事業予算の割振りの見直し等を行って、重点的に配分できるかどうか協議を行っていきます。

Q：雇用の確保、特に若者の仕事の確保が、少子化等々、現在地域社会が抱えている諸問題の解決の一助となる。『みどりが丘工業団地』への今後の工場誘致の計画、展望等はどうなっているのか。

A：秩父みどりが丘工業団地は、分譲終了後2区画の賃貸借契約が解除され、昨年7月より埼玉県企業局において再分譲が開始されました。先日、この工業団地への進出について県の企業立地課に、民間事業者から問い合わせがあり、現在、協議中であるとのことでした。

### 3 対話記録要旨

Q：市議会議員選挙が近づいているが、市議会議員定数・報酬の削減を公約に掲げる候補者が出てきてほしい。また、市から市議会への働きかけをしてほしい。

A：議員定数や報酬は、市議会で決定されるべきものですが、徐々に定数減等の流れ

となると思われます。市民の声を反映した定数や報酬の設定が望ましいと思われるので、こうしたご意見があったことを議会へも伝えます。

Q：今回の大雪では、除雪されない通学路で、低学年の小学生が歩行に難渋する姿が見られた。市報などで、弱者に配慮することをアピールしてほしい。

A：大雪の際には、小学生が不便なく通学できるよう、地域で目配りや見守りを行ってください。

Q：みどりが丘から柴宮神社の近くを流れ、赤平川に注ぐ沢は、下流部分が崩れやすくなっている。上流部分のように、整備ができないか。

A：現地を見てから検討しますので、連絡先を教えてください。

Q：伊古田地区を通る、来年度の市道幹線7号線の工事予定はどうなっているか。

A：この事業では、平成25年度までに全長828メートルの区間を整備します。来年度、130メートルの整備を予定しています。

Q：伊古田を流れる長森川の改修工事予定を教えてください。

A：秩父農林振興センターで確認したところ、平成22年度から5か年事業で、上流部から約700メートルを整備し、来年度は約70メートルの工事をするそうです。

Q：事前質問で回答のあった在宅福祉員への食材費の助成は、社会福祉協議会と協議して、前向きに対応してほしい。

A：委託している高齢者福祉事業の中で優先順位をつけ、より内容を充実できるかどうか社会福祉協議会と話し合ってみます。

Q：ちちぶ定住自立圏構想の内容と効果は何か。

A：ちちぶ定住自立圏構想とは、秩父郡市1市4町で協定し、広域組合で実施している消防やごみ処理のように、医療や観光分野等で連携して効果的に事務を行うことで、市民サービスの向上を図ろうとするものです。これにより、国からの財政的な支援もあり、メリットがあります。

Q：県道吉田久長秩父線で、2車線区間の途中に一部狭いところがあり危険だ。大田地区の住民が頻繁に利用する道路なので、拡張できないか。

A：埼玉県に聞いたところ、関係地権者が承諾したうえで、地元町会から要望書を提出してほしい、との話になっていますが、まだ提出されていないとのこと。

Q：地権者に、この部分をあまり利用しない蒔田地区に住んでいる人がいる。市から、蒔田の町会へも協力を依頼してほしい。

A：この部分は、地元議員から要望書が提出されていますので、昨年、地権者の方にもお会いしました。県へ要望するとともに、蒔田地区の町会に対しても、働きかけをしていきます。